

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 30人 国語B 30人

② 算数A 30人 算数B 30人

5 留意事項

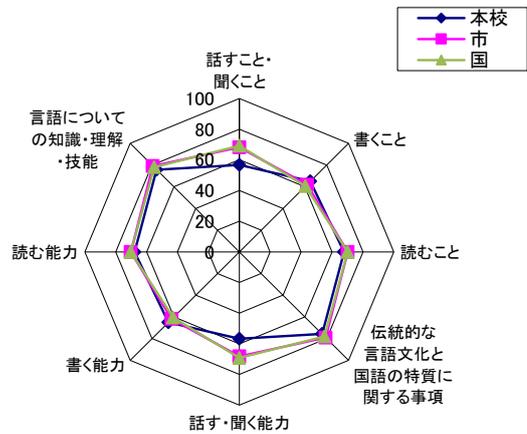
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

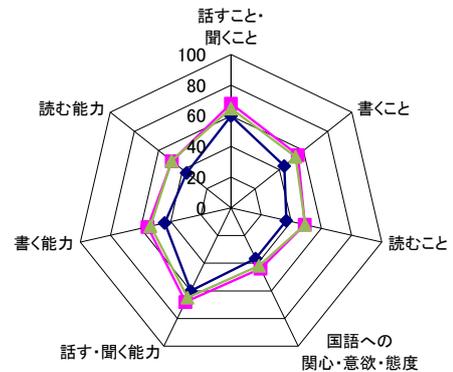
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	56.7	68.2	69.2
	書くこと	65.0	62.0	60.6
	読むこと	67.8	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	56.7	68.2	69.2
	書く能力	65.0	62.0	60.6
	読む能力	67.8	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	75.8	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	60.0	68.0	64.9
	書くこと	44.0	55.3	53.4
	読むこと	36.7	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	36.7	43.9	41.7
	話す・聞く能力	60.0	68.0	64.9
	書く能力	44.0	55.3	53.4
	読む能力	36.7	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			

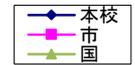


★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおける本校正答率は56.7%であり、市の平均と比較すると11.5ポイント、全国の平均と比較すると12.5ポイント低い。国語Bにおける本校正答率は60.0%であり、市の平均と比較すると8.0ポイント、全国の平均と比較すると4.9ポイント低い。	・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合えるように指導する。 ・物事を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話せるように指導する。
書くこと	○国語Aにおける本校正答率は65.0%であり、市の平均と比較すると3.0ポイント、全国の平均と比較すると4.4ポイント高い。 ●国語Bにおける本校正答率は44.4%であり、市の平均と比較すると11.3ポイント、全国の平均と比較すると9.4ポイント低い。	・目的や意図に応じて、引用したり必要な内容を整理したりして、文章全体の構成を考えて書けるように指導する。
読むこと	●国語Aにおける本校正答率は67.8%であり、市と全国の平均を比較すると2.4ポイント低い。 ●国語Bにおける本校正答率は36.7%であり、市の平均と比較すると12.3ポイント、全国の平均と比較すると12.5ポイント低い。	・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を正しく捉えられるように指導する。 ・物語を読んだ後に話し合い活動を取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりできるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aにおける本校正答率は75.8%であり、市の平均と比較すると3.3ポイント、全国の平均と比較すると2.2ポイント低い。	・同音異義語を正しく書き分けられるようにするために、日々の書き取り練習を増やしたり、小テストを行ったりして、定着を図る。

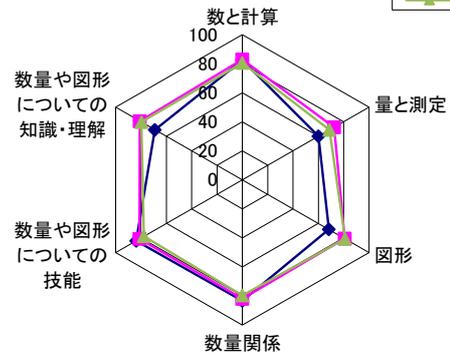
宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率



★本年度の国、市と本校の状況

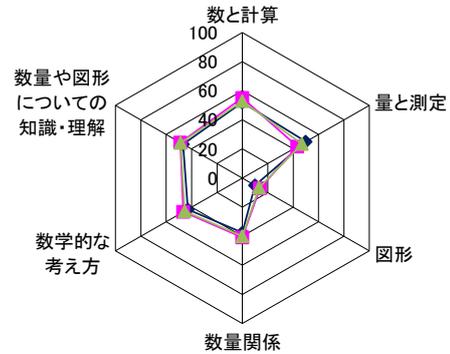
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	82.5	82.9	80.6
	量と測定	60.0	72.5	68.8
	図形	68.3	80.8	81.1
	数量関係	83.3	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	83.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	69.0	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.0	55.1	52.8
	量と測定	50.0	43.4	47.0
	図形	10.0	13.8	13.2
	数量関係	37.5	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.0	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	46.7	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○商を分数で表す問題の正答率は、93.3%であり、市の平均との比較で12.8ポイント、全国平均との比較で18.3ポイント高い。</p> <p>○算数Aにおける本校正答率は、82.5%であり、全国平均との比較で1.9ポイント高く、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>●算数Bにおける本校正答率は、52.0%であり、全国平均とはほぼ同じであるが、市の平均との比較で3.1ポイント低い。</p>	<p>・1より小さい小数をかける乗法の計算の正答率が低い。問題場面を数直線等を用いて考える活動を繰り返し行い、小数に関する理解を高める。</p> <p>・小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて積を求める考え方が十分とは言えない。求め方を確実に身に付けるためにドリル学習等を通して定着を図る。</p> <p>・基本的な計算の定着に向けて、毎日の宿題や朝の学習等で練習を重ね、習熟を図っていく。</p>
量と測定	<p>○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める問題の正答率は73.3%であり、市の平均との比較で5.8ポイント、全国平均との比較で5.4ポイント高い。</p> <p>●算数Aにおける本校正答率は、60.0%であり、全国平均との比較で8.8ポイント、市の平均との比較では12.5ポイント低い。</p> <p>○算数Bにおける本校正答率は、50.0%であり、全国平均との比較で3.0ポイント、市の平均との比較では6.4ポイント高い。</p>	<p>・重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ問題の正答率が低い。数直線や図等を用いたり、具体的な場面を想定したりして、重さや長さの性質や関係性について考える活動を繰り返し指導をしていく。</p> <p>・問題を解決する際に、実物を用意して、触れたり実際に測ったりする等の活動を通して、量の捉え方や測定の仕方等について継続的に指導する。</p>
図形	<p>●算数Aにおける本校正答率は、68.3%であり、全国平均との比較で12.8ポイント、市の平均との比較では12.5ポイント低い。</p> <p>●算数Bにおける本校正答率は、10.0%であり、全国平均との比較で3.2ポイント、市の平均との比較では3.8ポイント低い。</p>	<p>・円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを求める問題の正答率が低い。図形の性質について、視覚的な教材を利用して習熟を図る。</p> <p>・立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ問題の正答率が低い。立体の展開図を基に、辺や面の平行な関係や垂直な関係について、実感を伴った理解に結びつくよう指導する。</p>
数量関係	<p>○資料から二次元表の合計欄に入る数を求める問題の正答率は70.0%であり、市の平均との比較で1.7ポイント、全国平均との比較で7.2ポイント高い。</p> <p>○算数Aにおける本校正答率は、83.3%であり、全国平均との比較で3.7ポイント、市の平均との比較では1.4ポイント高い。</p> <p>●算数Bにおける本校正答率は、37.5%であり、全国平均との比較で2.5ポイント、市の平均との比較では3.3ポイント低い。</p>	<p>・未知の数量を□として、問題場面を除法の式で表す問題の正答率が低い。日常生活場面を基に考えさせたり、図や表を用いて考えさせたりして、未知の数量を求める活動を繰り返し行い定着を図る。</p> <p>・与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉える問題の正答率が低い。大きさの関係を正しく捉えられるようにするために、問題を数直線や表等に表して考える活動を通して、理解を高める。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的な回答は96.7%であり、県・全国平均を上回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的な回答も90%と高い値を示していることから、各家庭において規則正しい生活の習慣化がきちんとなされているからであると考えられる。今後も、各家庭と連携しながら、よい学習習慣を継続していけるように指導していきたい。

○「友達との約束を守っていますか」に対する肯定的な回答は100%、また、「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的な回答も100%となり、県・全国平均を上回った。これは、学校生活において、規則や友達との約束を守る道徳性が養われているからであると考えられる。また、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」に対する肯定的な回答は96.6%であり、県・全国平均を上回った。これは、学校での活動において、最上級生として責任ある役割を任される機会が多く、友達や下級生と協力して活動したり、担当の教職員から称賛されたりすることにより、自己肯定感が高められているからであると考えられる。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくてしようせんしていますか」と、「自分には、よいところがあると思いますか」も8割を越え、県・全国平均を上回った。今後も、最後まで互いに協力しながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やしていきたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対する肯定的な回答が96.7%、「いじめは、どんな理由があってもいじめないことだと思いますか」に対する肯定的な回答が100%である。道徳での価値づけや校内での「いじめゼロ集会」といった啓発活動を通して、相手の気持ちを考え、自律的な行動をしようとする道徳的实践力が高まっていると考えられる。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答は70%であるが、県や全国平均を上回った。積極的に地域の行事に参加することによって、地域のよさをさらに知る機会となり、郷土を大事にしようとする気持ちにつながっていると考えられる。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」と「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」に対して同意する回答がどちらも73.3%であった。「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は96.6%であることから、国語の勉強の重要性は理解していると考えられる。今後は、様々な場面で文章を書く機会を増やし、書く力が養われるような指導を工夫していきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いのある授業づくり「主体的・対話的で深い学び」の創造	ペアやグループ学習などを取り入れ、児童が自信をもって取り組めるようにし、話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、自分の考えを表現できるよう指導している。	「発表することは得意か」の肯定割合は、全国の平均とほぼ同じ（-2.2ポイント）であった。しかし、「自分の考えを説明したり文章に書いたりすることは難しい」と感じる児童が多く、全国より19.6ポイント高い。
学習のきまり(授業スタンダード)の徹底	1単位時間または、単元全体で「はっきり・じっくり・すっきり」を基本とした授業の展開を図っている。特に「すっきり」では、学習のまとめ・振り返りを時間を確保し、ノートなどに記入するよう指導をしている。	「学習の振り返りをしてる」は、全国に比べ12.9ポイント低い。ほかの学年(とちぎっ子学習状況調査)と比べてもマイナスが大きかった。しかし、「学習のめあてやねらいを書いている」は全国よりやや低い5.4ポイントであった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をしている。宿題等の見取りを行うとともに、自主学習についても確認し、宿題や自主学習に取り組む意識の向上を図っている。	平均の家庭学習の時間については、学校で目標としている「1時間以上」の児童が、56.7%で、全国(64.4%)より7.7ポイント低い。しかし、「全くしない」児童は0%(全国2.9%)であり、家庭学習の習慣化が図られるようになってきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
立式の理由を説明するなど、根拠をあげて考えることが苦手である。	授業の中で、根拠や理由について考えたり、意見を述べたりする時間を確保する。	授業中、結論を発表するだけでなく、その根拠や理由などについても説明するなどの機会を確保するとともに、課題設定や教師の発問を工夫する。
各教科の基礎・基本の中にも全国平均より10ポイント以上低いものがある。	朝の学習の時間などを利用して復習をし、学習内容の定着を図る。	結果から、基礎基本を身に付けるために必要な学習内容を抽出し、朝の学習の時間等を利用して、個別指導を中心とした復習を徹底し、定着を図る。